

早期胃癌研究会 2007 年最優秀 症例賞は秋田赤十字病院消化器 病センターが受賞

早期胃癌研究会では、毎月原則として 5 例の症例が提示され、臨床所見、病理所見ともに毎回詳細な症例検討が行われている。2003 年より、年間に提示された症例の中から最も優れた症例に最優秀症例賞が贈られることになった。

5 回目の表彰となる早期胃癌研究会 2007 年最優秀症例賞は、秋田赤十字病院消化器病センター・山野泰穂氏、吉川健二郎氏の発表した「過形成性様病変が 3 年 6 か月の経過中に早期大腸癌を合併した 1 例」(司会によるまとめは「胃と腸」本号 868 頁に掲載)に贈られた。2008 年 3 月 19 日(水)、東商ホールで行われた早期胃癌研究会の席上で、その表彰式が行われた。

症状の贈呈に先立ち、早期胃癌研究会運営幹事会最優秀症例賞選考担当幹事の工藤進英氏(昭和大学横浜市北部病院消化器センター)が“高質な症例が提示されることを目指して、模範となる優秀な症例を毎月選考している。2007 年に提示された中から各月の優秀症例 12 例が選ばれ、運営幹事会で選考した結果、最優秀症例には本症例が選ばれた”と選考過程を述べた。さらに“選考基準には 4 つの目安があり、1 つは珍しい症例のみにとらわれない。2 つ目は形態診断学の教育的要素を十分に備えている。3 つ目は診断のポイントが明示されていること、文献的考察がなされて教訓的であること。4 つ目は検査項目に漏れがないこと。その 4 つの選考基準を満たしている 12 の症例の中で最も優れている症例として本症例が選ばれた”と説明した。

続いて、早期胃癌研究会運営委員長の浜田勉氏(東部地域病院内科)から、賞状と賞金が贈呈された。浜田氏は“とてもきれいな画像で、消化管疾患を形態からみて、しかも病理で裏打ちしていくという「胃と腸」スピリ



▲ 受賞者の山野泰穂氏(右)と吉川健二氏(左)。

ットをみせてくれた症例であったと思う。ここに参集してくださる先生方にも是非、これはという症例は丁寧な画像と病理をとり、この研究会に提示していただきたい”と呼びかけた。

山野氏は“本日はこのような賞をいただきましてありがとうございます。20 年前に初めてこの会に参加したときは、何て素晴らしい会があるのだと思った。その後、自分で症例を発表するようになったときには、とても緊張して発表したことを今でも覚えている。その席で多くの先生方から温かい叱咤激励の言葉を頂戴して、それに報いることができるようにがんばりたいと常々思っていた。今回、それに適うことができた症例であったかどうかはわかりませんが、できる限りのことを行いこのような形で表すことができたと思う。今回、われわれの症例を病理学的にいろいろと検索していただきました菅井有先生(岩手医科大学病院病理)、内視鏡診断学・病理の大切さを教えていただいた工藤進英先生にも心から感謝を申し上げます。”と受賞の挨拶を述べた。

引き続き受賞論文の解説を行い、最後に会場から盛大な拍手が贈られた。